

みなと再生コミュニティデザインワークショップ

『新しいみなと賑わい創出計画』

平成 23 年 6 月

市民主導の【新しいみなと賑わい創出計画】について

市民参加の発展は「反対」、「陳情」、「提案」、「協働」の4段階に分けられるとされていますが、真の意味での住民参加とは、「提案」からであると考えられます。

実際、市民からの「提案」や、市民と行政の「協働」により施設整備が行われれば、あり方として理想に近いのですが、現実には、時間、労力、予算、権限、利害関係等、様々な制約から、そのような域に達している事例はほとんどないのが実状です。

市町村マスタープランにおいても、市民参加の方法は、形式的な「アンケート」「市民説明会」が中心であり、内容の検討提案を行う「策定委員会への市民参加」や、「市民による原案策定」はほとんど行われていません。

I C P C協議会のこれまでの活動経緯を考えると、市民と行政協働の『みなと再生事業』において、事業広報を兼ね、各種スキルの習得の意図で《点》としての活動（仲間づくり・ワークショップの運営・市外の協力者獲得・賑わいについての議論等）を行ってきました。

これまでの十分な活動の成果を活かし、これからは『市民主導のみなと再生』を明確にするため、平成23年度の活動を【新しいみなと賑わいの仕組み創出計画】の原案づくりを行います。

原案創りに際しては、市民と行政との役割、行政の理解等まだまだ解決すべき課題はあると思います。しかし、「新しいみなとは誰が使うのか？」という観点から考える時、施設整備事業の進捗状況を考慮すると、今年度賑わい創出原案を作成しておかないと、施設整備後利用方法を考えるという、これまでと同じ公共事業と変わらないものとなる可能性があります。

I C P Cが掲げる“シビックプライド”の精神。

《まちづくりに自発的に関わっているという自負心をより多くの方に持ってもらい、みなとを起点として新しい市民の誇りを生み出し、まちづくりへとつなげていく》

このためには市民主導のみなとの使い方と仕組みに関する市民提案が必要となります。

これを作成するのが【新しいみなと賑わい創出計画】原案づくりです。

市民参加による施設整備が進んでいない原因には、行政のあり方などの制度上の問題のほか、時間、予算、利害関係等の問題もありますが、「市民の意識がそこまで達していない」ことも大きな原因の一つと考えられています。

今年度の事業を意識啓発・セミナー等の学びの視点を含んだ形とし、それらを原案に落とし込む方法をとることとします。

【新しいみなと賑わい創出計画】の原案作成 目標

- 1 市民が港の魅力や課題を再発見し、目標を共有します。
- 2 計画を進めていく上で核となるチームの輪を広げます。
- 3 仲間を集めるツールとして使用することを想定し、市民にとってもわかりやすい内容とします。

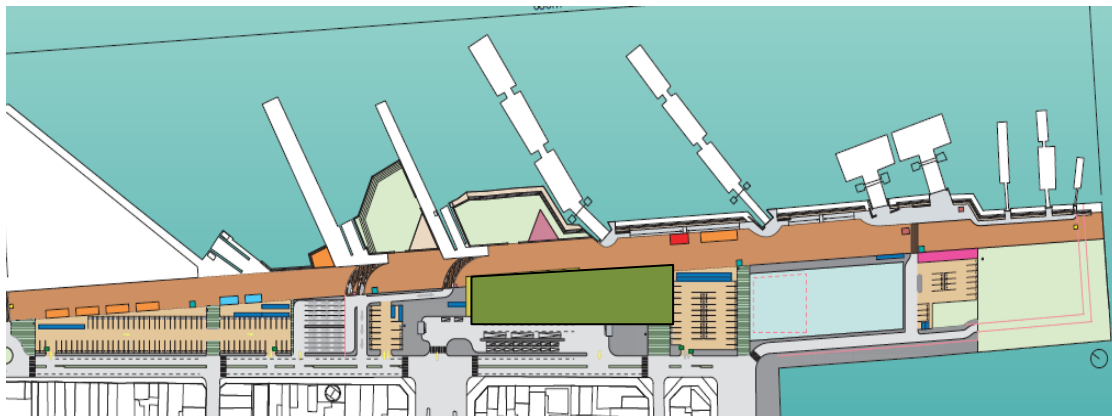
I C P C協議会 代表 友田 康貴

みなと再生コミュニティデザインワークショップ

『新しいみなと賑わい創出計画』作成

概要

- ・今治市の海の玄関口である今治港に、にぎわいや交流を生み出すための施設整備や仕掛けづくりを検討する
- ・みなと再生事業（ハード）とは別に、みなと再生後の使い方（ソフト）を市民が提案する。
- ・今治市・ANK共同企業体・市民が協働し、みなと再生の方向性を語り合える『場』をつくる



開催方法

- ・ワークショップは ICPC が主催する。ワークショップの運営に際し、コーディネーターとして山崎亮氏（studio-L）を招聘。
- ・市民と行政が協働し行う『みなと再生事業』において、みなと再生後の市民利用提案を行う。
- ・みなとに関連する方々（商店街・みなと再生事業エリアの近隣にお住まいの方々・海事関連事業者・商工関係者・みなとの利用者など）による長期ワークショップを開催し、そのワークショップでの意見を ICPC が集約する。
- ・一連のワークショップの最終段階として、ICPC の集約・整理した意見により、広く市民に開かれた報告書・報告会を開催する。
- ・ワークショップの成果を整理し、ANK 共同企業体に市民意見として提案する。

今年度以降の進め方

STEP 1

平成 23 年度

取り組みの核となるチームづくりを行いつつ、【新しいみなと賑わい創出計画】の原案を作成。



STEP 2

平成 24 年度

原案を広報ツールとして活用しながら、周辺で活動する市民活動団体や企業、大学等さらに取り組みの輪を広げます。また、取り組みの試験的実施を行い原案の見直ししながら、最終的な計画書の作成を行います。さらに取り組み相互の調整を担うコーディネーターを育成します。



STEP 3

平成 25 年度

本格的な取り組みを実施します。また、個々の取り組みの進捗状況や成果を共有できる機会を設け、取り組みの質的向上を図ります。

平成23年度の3つの目標

本年度における取り組み内容として以下の3つの目標を設定しました。

目標1

【新しいみなと賑わい創出計画】の原案作成を通じて、市民が港湾の魅力や課題を再発見し、目標を共有します。

これまで“交通の港”として発展してきた今治港は、用途の改廃が行われ、市民の意識から「みなと」の存在が薄れつつあります。そこで、再度「みなと」の魅力や課題を新たなメンバーと一緒に整理して関係者の問題意識や情報を共有します。加えて、整理した魅力や課題から「みなと」の目標像を明確に示し、段階的な目標を設定します。



目標2

【新しいみなと賑わい創出計画】の原案作成を通じて、その後計画を進めていく上で核となるチームの輪を広げます。

『新しいみなと賑わい創出計画』作成委員会においてもワークショップ形式で進めます。ワークショップ中にアイスブレイクやチームビルディングの要素を積極的に取り入れることによって、計画を実行に移すときに、その計画を推進するチームづくりを行います。



目標3

【新しいみなと賑わい創出計画】の原案は、仲間を集めるツールとして使用することを想定し、市民にとってもわかりやすい内容とします。

計画書は、その後の活動を一緒に取り組んでくれる仲間を集めるツールとなりえます。幅広い層の市民と協働しながら計画を実現していくためには、計画書自体がわかりやすく手にとってもらえやすいものである必要があります。そこで、イラストやダイアグラム等を適所に配ししながら、わかりやすい計画書を策定します。



山崎 亮 (やまざき りょう、1973 年 9 月 9 日)



ランドスケープデザイナー。コミュニティデザイナー。株式会社 studio-L 代表。公共空間のデザインに携わるとともに、完成した公共空間を使いこなすためのプログラムデザインやプロジェクトマネジメントに携わる。

1973 年愛知県に生まれる。

1992 年名古屋市立名東高等学校卒業。

1992 年大阪府立大学農学部入学。

1995 年メルボルン工科大学環境デザイン学部留学 (ランドスケープアーキテクチャ学科)。

1997 年大阪府立大学農学部卒業 (緑地計画工学専攻)。

1999 年大阪府立大学院農学生命科学研究科修士課程修了 (地域生態工学専攻)。

1999 年株式会社エス・イー・エヌ環境計画室入社。

2005 年株式会社エス・イー・エヌ環境計画室退社。

2005 年 studio-L 設立。

2006 年株式会社 studio-L 設立。現在、株式会社 studio-L 代表取締役。

2011 年度より、京都造形芸術大学芸術学部空間演出デザイン学科教授就任 (学科長)。

技術士 (建設部門: 都市および地方計画)。一級造園施工管理技士。

オーストラリアの片隅で、自分の実力のなさに愕然とした。



ランドスケープ・アーキテクトとして活躍する山崎さん。聞けば高校時代は昼間ラグビー一筋で、夜はブレイクダンスに明け暮れていたそう。「体力がありましたよ、今考えたら (笑)。大学はこれからの未来はバイオがくるぜ、って感じだったので大阪府立大学農学部に入りました。でも、結局バイオに進まず 3 年生からランドスケープデザインの研究室に入りました。デザインだからおしゃれだろうと思って入ったんです」。大学へは真面目に通ってなかったと語るが、3 年生のときに転機が訪れる。「メルボルン工科大学に留学したんです。奨学金が出るんですよ。渡航費が出て、授業料が無料で、月 8 万円もらえて、金髪のお姉さんと仲良くなれる (笑)。これは得だ! と思って行ってみたら、向こうは勉強するってことに対する意識がぜんぜん違うんですね。あれを実感したことが大きいですね」。

留学先では排水学や模型づくり、歴史学など、一授業 3 万円などと授業料に値段がついていた。単位をそろえて卒業するため、単位を落とせば落とすほどお金がかかる制度だった。

「だから、自分が購入した授業をさぼる学生はまずいない。また、日本の大学のように学生がたむろする部屋が用意されていないので、メルボルン市内に広い部屋を借りて、20 人くらいの学生仲間を募って、そこに各人が机や本棚を配置して、デザイン演習の課題をやったり、デザインについて議論したりしていました。そういう部屋のことを「studio」って呼んでいましたね。まさにこの「studio-L」みたいに、机と本棚が並ぶ部屋でしたよ。で、そのスタジオで一緒に勉強していた仲間たちの勉強量が半端じゃなかったんです。そのときですね。やらなきゃいけないなと思ったのは」。

設計とは別の部分のデザインに魅力を感じた。

その後、社会に出るには実力がなさすぎると判断して大学院時代に進んだ山崎さん。修了後、設計事務所に就職。

「浅野と三宅という、ふたりのボスがいたんですが、当時はデザインがやりたかったので、ハーバード大学でデザイ

ンを学んできた三宅のもとで、実施設計の詳細図面を描いたり、数量を計算したりしていました。ところが、もうひとりのボスである浅野もすごい人だったんです」。もとはマーケティングが専門のプランナーである浅野さんは、設計業界に入る前は複数の美容室を同時に経営していた人だった。「例えば、『公園をつくってくれ』と言われれば、どうがんばってもできあがるものは公園なんですね。少し奇抜なカタチにしようと、自然豊かにしようと、公園は公園。ところが、『公民館みたいな公園をつくってくれ』と言われれば、木の下で書道教室をやったり、池のほとりで英会話教室ができたりする公園をつくらうとする。ブランコや滑り台をつくるという従来の公園とは違ったものができあがるでしょう。つまり、どこにもない奇抜な形を模索することが重要なのではなく、社会が求めているのにこれまで世の中に無かったプログラムを生み出すことが重要なわけです。浅野はそういう考え方の人だった。その典型的な例は有馬富士公園の仕事です」。

有馬富士公園がすべてののはじまりだった。



当時の有馬富士公園は基本的には設計が終わっていて、開園後の運営計画をつくってほしい、という依頼だった。そこで山崎さんは、ディズニーランドのように「ようこそ」と言って誰かが迎えてくれるような公園にしようと考えた。歌って踊ってくれるキャストがいるような公園。しかし、公園の場合はキャストに給料を払えない。そこが課題だった。

「公園周辺の市街地を探してみたら、サークル活動や NPO など自主的な活動をされている方々がいっぱいいたんですね。50 近くあった活動団体にヒアリングしてみたら、『会議をやるたびに会議室を借りないといけない』『チラシをコピーするのが大変』など、困っていることがいっぱいありました。だから『その課題は公園側が解決しますから、ぜひうちの公園で活動してください』と誘って回ったんです」。

その作業は、今まで考えていたデザインの仕事ではなかった。「最初は相当緊張しましたね。知らない人に話しかけるのが嫌で嫌で。でも、それをしなきゃダメだ、と浅野に言われて。思い切って声をかけてみると、わりと快く公園に来てくれて、日替わりでいろんなことをやってくれるようになりました。例えば天体望遠鏡を持っている星に詳しい人たちは、自分たちの自慢の道具を公園へ持ち込んで来園者に夜空の観察プログラムを開催してくれるわけです。子どもたちに天体を見せてあげるから、こどもや親はとても喜ぶし、天体望遠鏡を持ってきた人たちも楽しい。ゲストもキャストも楽しんでいる。これって重要なことだと思いました。有馬富士公園は現在、パークマネジメントの先進地としていろいろな視察が来る公園になっているようです」。

公園としては珍しく、来者数がずっと増えて続けている。「結局これは彼らキャストがすごい。自分たちのファンをつくっているわけですから。設計という仕事も面白いけれども、そうじゃない部分をやる人がいてもいいんだろうなと思いました」。

みんなが自立した姿を見ると、うれしい。

独立して studio-L を設立した山崎さんは、パークマネジメント系の仕事を中心に、現在は京都府の木津川の公園や泉佐野丘陵緑地に誕生する公園のコンサルティングを行っている。

「多くの住民の方と話すようになり、専門的な言葉を使う回数が減ってきました。住まい手がどういう生活をしたいのかということから話さないと聞いてもらえないですから。街に入るときにいつもやることですが、『3年で僕たちはここから撤退しますよ』と必ず最初に言います。それは、僕たちがそこからいなくなっても自主的にうまく行くようにしたいからなんです」。

先の有馬富士公園に後日談がある。「予期していなかった良い点は、公園って清掃業者が年に 2 回、園内を一気に除草したり樹木を伐採したりするんですが、ため池の昆虫の生態に関係したプログラムをやっていた人たちが、慌ててパークセンターにやってきて、『あんな維持管理の方法では、この地域特有の昆虫がいなくなってしまう。もしよければあそこの部分は私たちで掃除とか管理とかやらせてくれないですか』と依頼したそうです。その方たちにため池

の管理を任せると、それを見た別のグループが里山の管理は自分たちがしたいと言うようになったんです」。その結果、公園を管理すべき面積が徐々に少なくなり、結果的に経費の節減につながったのだとか。

「パブリックのために市民に何ができるのか。住む人たちが立ち上がって、自分たちの私益だけでなく公益のために行動を起こさないと、豊かな風景はできあがらないと思うんです。

みんなが自立した姿を見るとうれしいんです。兵庫県のいえしま地域に住む地元のおかあさんたちと一緒に NPO 法人を立ち上げたんです。いまでは、自分たちで助成金とかとってきて活発に活動してますよ。そうなってくるとうれしいですね。

将来的には、どこか小さな町の町長をやってみたいなあ、と思っています。そこで、お金をかけずに楽しく豊かに暮らすライフスタイルをつくりあげたいんです。そのために必要な制度的枠組みを発明したい。発明するだけじゃなくて、すぐに実行してみたい。日本中の小さな村や町が独自にすごく楽しそうな暮らし方を実行し始めたら、大阪や東京でちょっと無理して暮らしている人や漠然とした不安に苛まれながら働いている人たちも、ガマンせずに地方へ飛び出せるようになるんじゃないかな」。

プロジェクト

- ・立川市（2011-現在）立川市庁舎跡地コミュニティデザイン
- ・近鉄百貨店（2011-現在）近鉄百貨店新本店コミュニティデザイン
- ・墨田区保健福祉課（2011-現在）食育基本計画策定
- ・横浜市都市デザイン室（2010-現在）東横線跡地利用コミュニティデザイン
- ・海士町（2010-2011）海士町出合い創出事業
- ・延岡市商業観光課（2010-現在）延岡駅周辺整備コミュニティデザイン
- ・半泊地域協議会（2010）五島列島半泊集落活性化プロジェクト
- ・東京建物（2010）六甲アイランドマンションランドスケープワークショップ
- ・株式会社丸屋（2010-現在）マルヤガーデンズコミュニティデザイン
- ・笠岡市ほか（2010）笠岡諸島子ども総合振興計画
- ・神戸市デザイン都市推進室（2010）神戸+デザインシンポジウム
- ・博報堂ほか（2010）「issue + design」プロジェクト
- ・京都府中丹土木事務所（2009-現在）福知山河川公園パークマネジメント
- ・土祭実行委員会（2009）土祭 2009 コミュニティデザイン
- ・水都大阪 2009 実行委員会（2009）水都大阪 2009 サポーターマネジメント
- ・海士町教育委員会（2009-2010）島前高校魅力化プロジェクト
- ・博報堂（2009）「こどものシアワセをカタチにする」プロジェクト
- ・博報堂（2008）「震災+デザイン」プロジェクト
- ・京都府山城北土木事務所（2007-現在）京都府立木津川右岸運動公園パークマネジメント
- ・大阪府岸和田土木事務所ほか（2007-現在）泉佐野丘陵緑地パークマネジメント
- ・国土交通省猪名川総合開発事務所ほか（2007-2009）余野川ダムプロジェクト
- ・海士町教育委員会（2007-2008）海士町総合振興計画策定
- ・家島町企画財政課ほか（2002-現在）いえしまプロジェクト
- ・国土交通省近畿地方整備局国営明石海峡公園工事事務所ほか（2001-2007）ユニセフパークプロジェクト
- ・兵庫県阪神北県民局三田土木事務所ほか（1999-2007）有馬富士公園パークマネジメント

【新しいみなと賑わいの仕組み創出計画】 進行スケジュール

日程・場所	テーマ	内容
8月26日(金) 18:00～ 今治中央公民館	第2回 『新しいみなと賑わい創出計画』 作成委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・みなと再生事業基本計画の説明 A・N・K共同企業体 西沢大良 ・アイスブレイクやチームビルディング ・今治港周辺及び今治港の魅力と課題を整理
9月22日(木) 19:00～	第3回 『新しいみなと賑わい創出計画』 作成委員会	世界のみなと再生と今治のみなと 太田浩史 東京大学生産技術研究所講師 <ul style="list-style-type: none"> ・施設機能を踏まえた上で、賑わい創出コンテンツ出し
9月23日(金) 10:00～17:00	みなとのポテンシャルを知る フィールドワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に港周辺を歩き、港再生地域のデータ収集を学生とおこなう ・前日のワークショップの続きを行う。 ・賑わい創出コンテンツ(案)を作成する。
10月2日(日)	600mのコンコースをウォーキングコースにするためのヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> ・賑わい創出コンテンツ(案)をもとに全国から来たウォーカーを対象にヒアリング調査を行い、ヒントを収集する。
10月18日(火) 19:00～	第4回 『新しいみなと賑わい創出計画』 作成委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・賑わいコンテンツの絞り込み優先順位を行い、優先順位の高いものから具体案に移行していく (コンテンツを企画書へまとめる) ・活動に必要な設備、備品を整理する。
11月22日(水) 19:00～	第5回 『新しいみなと賑わい創出計画』 作成委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・賑わいコンテンツの絞り込みを行い運営形態(仕組み)まで落とし込む ・活動ルールを検討。
12月28日(水) 19:00～	第6回 『新しいみなと賑わい創出計画』 作成委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・賑わいコンテンツの具体的スケジュールへの落とし込み ・みなと再生事業との連動
1月25日(水) 19:00～	第7回 『新しいみなと賑わい創出計画』 作成委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・提案書(案)の提示 今までの議論をまとめた提案書すり合わせ 確認等
2月22日(水) 19:00～	第8回 『新しいみなと賑わい創出計画』 作成委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・提案書(案)の提示 提案書の上承
3月13日(火)	ICPCフォーラム 市民会館	<ul style="list-style-type: none"> ・市民提案発表の場 ・実施設計発表の場